

□議員名：大井淳一郎

1 公民館のコミュニティセンター化について

論点	近年、公民館を地域コミュニティ活動の拠点として位置づけ、設置主体を教育委員会から市長部局に移す自治体が増えているが、本市の考えはどうか。
回答	協創によるまちづくりを進める上で、教育委員会と市長部局が融合し、市として一体的に取り組み推進することが求められる。来年度以降、総合教育会議の場などを活用して協議を始めていきたい。

論点	コミュニティセンター化によって管理運営や公民館講座などに何か変化はあるのか。
回答	管理運営については公民館長を置くことになるが、その役割が教育委員会に関するものから地域づくり全般に変わる。従来の生涯学習講座等については引き続き行われていくものと考えている。

論点	他市では地域運営組織として「まちづくり協議会」が設置されているが、この協議会と既存団体との兼ね合いをどのように考えているのか。
回答	新しい組織を一から作り直すのではなく、いま実際に地域で活動しているたちの存在を大切にしながら一緒になって組織づくりをしていきたい。そこに新たな人を加えて、多様性のある組織になることを期待している。

2 投票環境の整備について

論点	有権者の利便性を向上させるために、地区に1か所しかないところなどについては当日投票所を増設すべきではないか。
回答	投票所までの距離や投票所当たりの有権者数などの基準に照らして投票所を定めている。1地区1投票所のところにおいても基準を満たしている。当日投票所の増設ではなく、期日前投票所の充実という形で有権者の利便性の向上を図りたいと考えている。

論点	投票所をバリアフリー化すべきではないか。
----	----------------------

回答	大きな段差のある投票所については、段差解消のためのスロープを設置している。自治会館については、場内に緑マットをひいて靴を履いたまま投票できるようにしている。
----	--

3 来年の市長選挙について

論点	アフターコロナを見据えたまちづくりを具体的にどのように進めていくのか。
回答	これからは新たな視点やアイデア、そしてチャレンジする行動が伴うことが必要である。具体的に何をするのかについては、中期基本計画の策定の中で取り組んでいきたい。

論点	一体感の醸成にむけて温度差をどのように埋めていくのか。
回答	キーワードは多様性だと思っている。地域内あるいは地域外と協力して物事を解決するときに、価値を認め合うことや色々な方を受け入れる度量が必要である。今後も人づくりにむけて継続的な努力を続けていきたいと考えている。

論点	今後もよいチーム市役所を作るために、トップとしてどのように取り組んでいくのか。
回答	市役所は大きな組織であり、各層一人一人が力を発揮していく必要がある。知識や技術だけでなく、市民と意見交換の場を多く持ち自分が考えたことが実際に役に立つか検証することで、職員としての資質が向上していくものだと考える。